

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 23 年度第 3 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)		小金井市ごみ対策課		
開催日時		平成 24 年 2 月 23 日 (木) 午後 6 時 00 分から午後 8 時 00 分まで		
開催場所		小金井市役所 第二庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者 ; 13 名> 庄司会長・植村副会長・加藤委員・竹内委員・佐藤委員・山田委員・多田委員・伊藤委員・鈴木委員・勝又委員・簗口委員・原委員・松村委員 <欠席者 ; 2 名>		
	事務局	岡部環境部長・柿崎ごみ対策課長・三浦ごみ処理施設担当課長・吉沢中間処理場担当課長・石阪ごみ対策課長補佐・井上・八方・中村・府川		
傍聴者の可否		可	傍聴者数	2
会議次第		1 開 会 第 2 回審議会会議録の確認 2 議 題 (1) 報告事項 ア 平成 2 3 年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について イ 新ごみ処理施設建設事業の進捗について ウ 平成 2 3 年度生ごみ水切り実験モニターの集計結果について (2) 「平成 2 4 年度一般廃棄物処理計画 (案)」について審議 (3) その他		
会議結果		別紙審議経過のとおり		
提出資料		別添のとおり		
その他		次回開催予定 平成 24 年 3 月 19 日 (月) 市役所第二庁舎 801 会議室		

平成23年度第3回廃棄物減量等推進審議会審議過程（主たる発言等）2月23日開催

庄司会長	<p>開会</p> <p>第2回廃棄物減量等推進審議会の会議録についていかがか。</p>
委員	<p>特になし</p>
庄司会長	<p>第2回廃棄物減量等推進審議会の会議録について確認されたこととし、公開の手続きをする。</p> <p>議題（1）報告事項に入る前に、事務局より本日の配布資料について確認願いたい。</p>
府川係長	<p>「配布資料の確認」</p>
庄司会長	<p>次に、議題（1）ア 平成23年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について及びイ 新ごみ処理施設建設事業の進捗について事務局より説明願いたい。</p>
三浦課長	<p>資料：「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」に基づき説明</p> <p>平成24年の1月までの可燃ごみの処理量実績は、家庭系ごみは10,662.3トン、事業系596.9トンとなり、これを前年の同時期と比較すると、家庭系では、801.9トン、7.02%の減、事業系は42.9トン、6.7%の減となっており、全体では844.8トン、7.00%の減となっている。</p> <p>このような減量が図られた主な要因は、当審議会でご提案いただいた減量施策等が目に見える形で現れたものであり、加えて市民の皆様のごみ減量に対する努力の賜物であると考えている。</p> <p>資料：「平成23年度可燃ごみ処理の支援状況について」に基づき説明</p> <p>各団体への搬入量実績はご覧のとおりとなっている。なお、新聞報道にもあったが、去る1月28日に町田市の施設にトラブルが発生した。</p> <p>このため、1月31日以降は町田市に搬送できない状態となったが、当市のごみ減量が進んでいることや町田市を除く他団体との契約量に若干の幅があったこと等から、すでに契約させていただいた支援量の中で調整することが可能となり、今年度の全量処理は確保できる見通しとなっている。</p> <p>また、平成24年度については、2月14日に開催された多摩川衛生組合議会全員協議会に市長自ら出席し支援要請を行ったところ、前年度並みの8,000トンについては支援をお願いできることとなった。当市の窮状にご理解</p>

	<p>いただき、施設周辺にお住まいの皆様並びに関係者の皆様に、この場をお借りして改めて御礼を申し上げる次第である。</p> <p>しかしながら、平成 24 年度については、未だ全量処理の目処が立つ段階には至っておらず、引き続き各団体への支援要請に全力で支援の要請を行っているところであり、今しばらくお時間をいただきたい。</p> <p>次に、新ごみ処理施設建設事業の進捗状況についてであるが、前回の審議会で報告した状況から変化はない。しかしながら、現市長は「平成 24 年度末までに実現可能な方針を示す」との考え方を示しており、早期に現状から脱却すべく、今後も市長並びに市議会とも一体となって取り組んでいく所存である。</p> <p>現在の状況が多方面からご批判をいただいている事は重々承知をしているところではあるが、市民生活に影響のないよう、今後のごみ処理の体制作りにも全力で取り組んでいくので、今しばらくお時間をいただきたい。なお、具体的な進捗を示すことのできる段階となれば、速やかに当審議会に報告させていただくので、ご理解いただくようお願い申し上げます。</p>
庄司会長	<p>ただ今の報告について、質問はあるか。</p> <p>来年度の支援状況についてはまだ約 5,000 トンが不足しているということだが、不足分については今年度中に確保できるよう調整中ということでしょうか。</p>
三浦課長	<p>そのとおりである。</p>
加藤委員	<p>家庭系ごみについては著しい減量となっており、剪定枝の影響が大きいと考えるが、この他にも要因はあるのか。</p>
井上係長	<p>ご指摘のとおり、剪定枝の影響が大きく、23年4月より1束(袋)からの申し込み制での回収となり、24年1月までの回収量が751トンであった。これらを全量資源化しているのでその分燃やすごみが減量している。</p>
原委員	<p>昨年度比で5%以上減量できているのは評価すべきである。</p>
庄司会長	<p>原委員の指摘のとおり、全国平均で見ても驚異的な数字である。例えば、有料化を開始し、更に大きな施策を加えて5%減量できるのが一般的であるが、この数年間是对前年度比で5%以上毎年減量している。なお、平成24年度も同じく5%の減量目標を掲げているため、後ほど審議を行う平成24年度処理計画の中で実現可能性については確認することとする。</p> <p>次に、議題(1)ウ 平成23年度生ごみ水切り実験モニターの集計結果に</p>

石阪課長補佐	<p>ついて事務局より説明願いたい。</p> <p>資料：「平成23年度水切り実験モニター実績表及び感想・意見等」に基づき説明</p> <p>手元に配布している実績表については、平成23年度一般廃棄物処理計画に掲げた新たな施策として、30人以上のごみゼロ化推進員の方々のご協力により行われ、その実施結果をまとめたものである。</p> <p>その中で、実績表の一番右側の項目の減量割合が第1期から第4期までの各々が実践した平均となり、同項目の一番下にある10.6%がそれらを平均化した最終的な評価となり、当初予想していた数値よりは下回った結果となった。</p> <p>2枚目の資料は実際にご協力いただいた方々からの感想・意見等をまとめたものである。この中には、生ごみの減量効果につながるような貴重なご意見等があるため、この事業の成果の1つと考えており、今後の減量施策への活用や市民への紹介等も検討していく考えである。なお、詳細については資料をご覧ください。</p>
庄司会長	<p>ただ今の報告について、質問はあるか。</p>
加藤委員	<p>実績表の各期別に実施日数とあるが、この意味について説明願いたい。</p>
石阪課長補佐	<p>今回のモニター期間は第1期から第4期の中でそれぞれ約20日間の日程を設けており、各期でおおむね10日間程度実施するようお願いしていた。しかし、中には20日間行った方もいれば6日間しか行わなかった方もいる。第1期のモニターNo.1の例で見ると、この方は10日間実施しており、水切り前、減量とそれぞれ1日当たりの平均値を算出したのが429グラムと58グラムであり、これを元に減量割合を算出している。</p>
庄司会長	<p>今の例で確認すると、水切り前の重量を計量したのが429グラムで、水切り後にも生ごみの重量を計量し、その差分で58グラム減量したという理解でよいか。</p>
石阪課長補佐	<p>そのとおりである。</p>
加藤委員	<p>生ごみが出た後、水切りを行うまでの時間は設定しているのか。</p>
石阪課長補佐	<p>モニターに参加した方々にはそれぞれの手段があるため、各自の判断でお願いしているが、キャンペーン等で配布している水切り袋を提供しており、これ</p>

	<p>を使用する前提という点では共通している。</p>
庄司会長	<p>水切りを行う前にどの程度しぼっているか、例えば、生ごみが出た後にすぐ水切りを行うのと一定時間放置していた場合とでは当然差は出てくる。</p>
竹内委員	<p>モニターをお願いした方々の意識の差によっても違いが生じる。</p>
植村委員	<p>減量割合が大きい人とそうでない人の差が大きい。できれば各個人の水切り結果と感想がリンクしてあれば、より分析できると思うがいかがであるか。</p>
石阪課長補佐	<p>各個人の結果及び感想を元に分析を行い、見解をまとめたうえで報告することとする。</p>
庄司会長	<p>質問がなければ(2)「平成24年度一般廃棄物処理計画(案)」について審議を行う。</p>
府川係長	<p>資料：「平成24年度一般廃棄物処理計画(案)」に基づき説明</p>
庄司会長	<p>本日は、平成24年度一般廃棄物処理計画9ページ中段、3ごみの減量計画及び達成に向けた施策について検討していく。まず、(1)については、可燃系ごみ5%、不燃系ごみ1%について対前年度比で減量するという記述がある。先ほども触れたように、可燃系ごみについては、この数年間は対前年度比で5%以上減量しており、前年度のごみ減量施策を実行しながら、さらに24年度についても5%の減量目標を掲げているため非常に高い目標設定となっている。その目標をどのように達成していくかは10ページ以降の(2)ごみ減量達成に向けた施策として掲げているとおりである。特に、新たに実施する施策と充実させる施策を重点的に行っていくと新たな効果は見込まれない。</p> <p>まず、事務局より新たに実施する施策について、各施策の説明をお願いしたい。</p>
井上係長	<p>アについては再使用可能なくつ、かばん、ベルト、ぬいぐるみを別途回収後、海外へ運び再使用することとなった。24年4月より中町リサイクル事業所内で毎月第二火曜日の午後2時から3時30分まで拠点回収を行う予定である。</p>
勝又委員	<p>非常に良い取り組みだと思うが、自身で再使用できると思って持ち寄った物について、実際に現地で受け入れを断ることはあるのか。</p>
井上係長	<p>どこまでが再使用できるかについては不透明な部分もあるため、市が指定し</p>

	<p>た品目であれば受け入れる予定である。当日は市職員が立ち会い、回収後に民間業者へ売却後、最終的に主に東南アジア等の海外へ運ぶこととなっている。</p>
伊藤委員	<p>多摩地域の自治体の中で、実際にこのような取り組みを行っているところはあるか。また、すでに実施している自治体があれば視察等を行ったのか。</p>
井上係長	<p>多摩地域での例はないが、23区内では渋谷区、世田谷区、港区で23年度より実施しており、回収方法等は当市と同じ方法と確認している。しかし、視察等を行ってはいない。</p>
庄司会長	<p>次に新たに実施する施策のイについて説明願いたい。</p>
井上係長	<p>イについて、子供向け減量キャラクターについては東京学芸大学のグラフィックデザイン研究室に作製していただいた。このキャラクターを市報やごみ・リサイクルカレンダー等の広報媒体で使用していく中で、ごみ減量・分別をPRしていく予定である。なお、財団法人自治総合センターより環境保全促進事業の募集があり、助成の内示をいただいた。したがって、この助成金を活用し、子供向けのDVDや冊子を新たに作製する予定である。</p>
庄司会長	<p>ただ今の助成金はいくら交付されるのか。</p>
井上係長	<p>金額は190万円であり、全額助成となっている。</p>
庄司会長	<p>イについては、主に環境教育という側面であり重要ではあるが、この施策で何パーセント削減できるかというのは非常に難しい部分である。</p> <p>ただ今、新たに実施する施策として2つの説明があったがその他に質問はあるか。</p>
加藤委員	<p>再使用可能なものについてはリサイクル事業所に有料で引き取ってもらうことができるが、くつ、かばん類はこの引き取りの対象となっているのか。</p>
井上係長	<p>くつ、かばん類については燃やさないごみとして収集しており、従前よりリサイクル事業所での引き取りの対象とはなっていない。</p>
多田委員	<p>スーツケースはかばんとして回収の対象に入るのか。</p>
井上係長	<p>かばんの中でも回収できるものとできないものがあり、スーツケース等の車輪の付いたものやランドセルについては対象外としており、従来どおり燃やさ</p>

	<p>ないごみや粗大ごみとして排出するようお願いする。なお、ランドセルについては海外での需要が見込めない現状がある。</p>
竹内委員	<p>昨年10月に行われた組成分析の結果、約20%以上のくつ、かばん類が混入しており、燃やさないごみの中では多く、この結果を受けて、今回の新たな施策として盛り込んだと思われる。</p>
柿崎課長	<p>この施策については、以前から検討しており、今回行われた組成分析の際には、実際にどの程度のくつ・かばん類が混入されているかを把握する必要があるため、あえて組成分析の項目の1つとして加えた。結果は竹内委員のご指摘のとおり、割合としては多く混入していたため、改めてこの施策を行う必要性があると判断した。</p>
竹内委員	<p>先日、自宅に24年度版ごみ・リサイクルカレンダーが届いたが、この拠点回収についてはどうして掲載していないのか。</p>
井上係長	<p>端的にごみ・リサイクルカレンダーの製作時期に間に合わなかったためである。そのため、3月15日号市報ごみ減量・リサイクル特集の中では掲載する予定である。</p>
庄司会長	<p>この2つの新たに実施する施策については、数字としての根拠は導きにくいものではあるが、試みとしては非常に興味深く、今後の経過を確認していくこととする。</p> <p>次に充実させる施策として、生ごみの水切りを含め、5つの施策を掲げられているが、どのように充実させていくか事務局より説明願いたい。</p>
石阪課長補佐	<p>この充実させる施策については過去の処理計画の中でも盛り込まれており、さらに強化していく必要のある施策として掲げている。その中でもア、ウ、オについては生ごみの減量による効果を期待しているものである。</p> <p>アについては先程の水切りモニター結果報告の中で説明しているとおりである。イについては、ごみ分別指導員制度をごみゼロ化推進員の方々のご協力により、昨年10月より開始した。実際には、自宅の前に「ごみの相談員」看板を掲示していただき、近隣からの相談があればごみの分別や出し方等の指導をお願いしている。この活動をさらに定着させ、ごみ減量・資源化の推進を図ることを目的としている。</p> <p>ウについては、これまである程度の集合住宅や自治会等で処理機を設置又は運営管理を市で行ってきたところであるが、利用率が上がらない状況である。</p> <p>今年度中には新たに国家公務員住宅に設置する予定であり、機種を選定も含め、運営管理等を自主的に管理する中で進めているところである。</p>

	<p>来年度については、他の町会、自治会からの要望があれば導入に向けた協議を重ねていき、大型生ごみ処理機の活用を広めていく趣旨である。</p> <p>エについては、児童・生徒がこれから成長していく中で、ごみ減量への認識を定着していく効果を期待しているものであり、さらに環境教育がやがては親世代まで波及していくと考えており、影響力が非常に大きいと感じている。</p> <p>オについて、夏休み市民投入についてはボランティアの方々との連携もあり、年々定着しつつある事業となっている。土曜日投入については、今までは市内3校で実施していたが、昨年12月より2校増加し、現在5校での実施となっている。今後、要望等があればまだ土曜日投入を実施していない学校等関係部署と調整を行う中で実施校を増やしていきたいと考えている。</p>
加藤委員	<p>アの水切りモニターについては、具体的にはどのようなスケジュールを考えているのか。24年度も再度モニター実施を検討しているのか。</p>
石阪課長補佐	<p>今回の水切りモニターの結果を踏まえ、さらに家族構成や出し方等を加味した上でどういう形でモニターを実施していくのか、開催時期も含め検討していく必要がある。</p>
伊藤委員	<p>エとオを含めて伺いたいですが、各学校には大勢の生徒がおり、給食残渣が多く出ると思われる。各家庭だけではなく、各学校から出る給食残渣についても減量するよう働きかけるべきであり、教育委員会のみならず校長会や教頭会でも訴えていく必要がある。平成23年度については校長会や教頭会へ何か働きかけるようなことは行ったのか。</p>
井上係長	<p>毎年、校長会へはごみの出前講座の開催依頼は行っており、平成23年度についても依頼を行ったところである。</p>
伊藤委員	<p>小中学校の給食残渣量は、毎年報告される小金井市のごみ処理量には計上されているのか。</p>
府川係長	<p>給食残渣については、各学校の自己処理という判断をしており、毎年当審議会内で報告している市のごみ処理量には計上していない。</p>
伊藤委員	<p>今以上に学校側に働きかけていただき、校長や各担任から直接生徒へ教育することにより生徒の意識も高まると思うのでお願いします。</p>
簗口委員	<p>各学校では、保護者向けに行われる給食試食会を行っており、また、連絡会の中でも各生徒には給食残渣をなるべく出さないよう指導している。特に良い取り組みであると思ったのが、例えば1年生の給食で余った分は6年生の教室</p>

	<p>へ持っていき、6年生が余った分を食べるという取り組みを行っており、大変喜ばれているそうである。また、給食を残さないように校内放送で周知するなど学校内でも対策を講じている。</p>
庄司会長	<p>学校給食で出た給食残渣については市で収集しているのか。</p>
柿崎課長	<p>残渣については各学校に設置してある大型生ごみ処理機へ投入しており、投入できないものも一部あるが、ほぼごみとしては多くは出ていない。</p> <p>また、市では市施設ごみゼロ化行動計画を実施しており、その中で毎年5%の削減を明記している。状況としては年々ごみ量が減少しているところである。</p>
庄司会長	<p>投入できないものについては市が収集しているものと理解してよいか。</p>
柿崎課長	<p>市で収集しており、毎年各学校から実績報告を提出していただいている。</p>
加藤委員	<p>生ごみの水切りを徹底した場合の減量について、11ページの推計では297トンとなっている。先ほどの水切りモニターについてはごみゼロ化推進員が取り組んだものであり、一般市民が行った場合はどうなるか興味がある。また297トンを減量するためには相当な啓発等をしなければ目標を達成するのは難しいと考える。</p>
庄司会長	<p>11ページの水切りを徹底した場合の減量の中では水切りによる減量率は17.47%を見込んでおり、今回の水切りモニター結果報告での減量率は10.6%と乖離が見られ、297トンを減量するためには徹底した努力が必要となり、高い目標設定となっている。</p>
竹内委員	<p>全世帯の25%に対する新たな効果を見込むとあり、非常に多くの協力を想定しているため、本当に25%の世帯に協力してもらえるか疑問が残る。</p>
庄司会長	<p>今回の目標設定については、実現可能性があるかないか適正が問われるところである。</p>
加藤委員	<p>水切りのモデル地域を設定して取り組む方法もあり、実際に他市では成功しているところもあるため、意見として申し上げる。</p>
松村委員	<p>水切りの方法は人それぞれの手法があるが、一番効果的な方法として、ミキサーで粉砕してしまう方法を推奨する。通常の水切りのみだと、みかんの皮やバナナの皮は絞っても水分は出てこなく、ミキサーであればこれらの物も粉々</p>

	<p>にできるので減量の観点から考えれば有効である。</p>
加藤委員	<p>私は、一番減量効果の高い方法として、生ごみの天日干しと考えており、カゴに生ごみを入れてベランダに干すことで20～30%程は減量できると考えている。</p>
庄司会長	<p>市としては各委員から出たアイデアも含めて検討していく余地があり、どのように市民の方々に協力をしてもらおうか考えていく必要がある。</p>
簗口委員	<p>エに環境教育についての記述があるが、その中で中間処理場の活用という言葉も含まれており、どのように活用していくのか説明願いたい。</p>
府川係長	<p>まずは社会科見学という位置づけで考えている。実際に聞かれる声として中間処理場では何をしているのか分からない方や中間処理場自体知らないという方もいる。まずは環境教育の場として社会科見学することにより意識の向上が図れるのではないかと考えている。</p>
簗口委員	<p>現状では、年間で何校が見学にきているのか。</p>
吉沢課長	<p>今年度の見学は現状では3校である。</p>
簗口委員	<p>小金井市内の市立小中学校は小・中合計で14校あり、まだまだ少ないと感じる。さらに増やしていくようお願いしたい。</p>
庄司会長	<p>次に、継続させる施策に入るがこの中で何か質問があるか。</p>
加藤委員	<p>イの生ごみ減量化処理機器購入費補助制度であるが、現在、コンポスト容器、手動かくはん式、電動式と3種類あるが、非常に分かりにくくなっている。すべて5万円上限80%補助というふうに統一することができないか。</p>
庄司会長	<p>ただ今の意見に対して、日頃からの市民の意見等を踏まえて市ではどのようにとらえているか。</p>
石阪課長補佐	<p>現状では、他にそのような意見は聞いてはいない。</p>
庄司会長	<p>前回の当審議会の中で、電動型生ごみ処理機については東日本大震災に伴う節電対策の影響から補助件数が減少している報告があったが、その後件数が増加しているという説明があった。現状の報告をお願いしたい。</p>

石阪課長補佐	1 1月頃より申請件数が増加し、現在も一定の申請件数がある。
庄司会長	オの販売事業者の自主的な回収・処理の拡充について、現状での事業者との状況について進捗があれば回答願いたい。
井上係長	市では、毎年大規模事業所について調査を行っており、特に今年度については市が直接回収している事業者をピックアップし、自主回収について説明している。
加藤委員	各店舗の回収状況はどこが自主回収なのか非常に分かりにくくなっている。
柿崎課長	自主回収を行っている店舗については、毎年作製しているごみ・リサイクルカレンダーの中で一覧表として掲載している。なお、現在、大規模事業所への調査の中で自主回収をお願いしているところであるが、事業所の中には、今まで市が回収していた中での転換に戸惑いを感じている事業所もあり、難しい側面もある。
庄司会長	<p>この問題は、市と事業者の2者による協議のみでは解決は難しく、消費者も入って協議していく必要がある。他の自治体では協定を結んで取り組んでいるところもあり、検討していくべき項目である。</p> <p>他に質問はあるか。</p> <p>今回は各施策を個別に確認したが、可燃系ごみについては5%の減量目標を設定しており、課題は多いが、各委員はこの目標を達成するために処理計画を推し進めていくということによろしいか。</p> <p>次に問題は不燃系ごみであるが、可燃系ごみと比較して増量傾向にあるが、平成24年度処理計画についても昨年度比1%減という目標設定をしており、前年度の処理計画と同様となっている。理由の1つとしては、分別の徹底により燃やすごみが減量したことにより、逆に不燃系ごみが増量したということが考えられる。そのことも踏まえ、不燃系ごみの減量について検討していくこととしたい。</p>
加藤委員	昨年行われた組成分析の中で、燃やさないごみの中にプラスチック類が2割から3割ぐらい含まれていると思われる。この要因の1つにプラスチックごみと燃やさないごみの指定収集袋が同一であるということが原因の1つであると考えている。現に、平成22年度多摩ごみ実態調査によると、小金井市の1人1日当たりの不燃ごみの量は、87.1グラムであった。同じ方式で行って

竹内委員	<p>いる多摩市は30.9グラムであり、倍以上もあることが分かる。また、府中市も減量を果たしている。</p> <p>リサイクル推進協力店についてはもっと市民に広報をすべきである。そうすれば、消費者は自主回収している店舗を把握することができ、例えば、購入した商品に付属している食品トレイを購入した店舗内の回収ボックスに入れる等の取り組みも可能であり、最終的に市のごみ減量に繋がるのではないかと。</p>
加藤委員	<p>今の発言に加え、先ほど話に出たごみ・リサイクルカレンダーについてであるが、拠点回収の一覧表については、店舗や市施設が混在していて非常に分かりにくい。それぞれ分けると非常に見やすい。</p>
柿崎課長	<p>今回のごみ・リサイクルカレンダーについては大幅な改良を行い、一定の前進はしたところではあるが、指摘された事項については今後の検討課題としたい。なお、事業者によっては、ごみ・リサイクルカレンダーに拠点回収場所として載せてほしくないところもあり、難しい面もある。</p> <p>次に、先ほど組成分析の話が出たが、この分析項目では、容器包装と容器包装以外で分かれており、容器包装以外の中でも製品という項目は、100%プラスチック製でなければ市の収集区分では燃やさないごみに出すべきものである。したがって、このデータのみで指定収集袋の配色が同じという理由は成り立たないと考える。</p> <p>また、不燃系ごみは確かに増量しており、1つは庄司会長の説明のとおりで燃やすごみの分別が徹底され、その分不燃系ごみが増えているものと考えている。また、他市の動向についても小金井市と同様の状況であり、やはり不燃系ごみが増量しているという報告がある。府中市については、平成22年度より戸別収集、有料化を導入したこともあり不燃系ごみが減量している状況である。</p>
吉沢課長	<p>中間処理場内に搬入される燃やさないごみの中で特に品目で目立つのは陶器が多い状況がある。陶器は1個当たりの重量があり、燃やさないごみ増量の原因の1つと考えている。</p>
多田委員	<p>断捨離という言葉が流行しており、市内は大学も多く、異動の回転も速いため、引っ越しの際にその都度捨ててしまうのも一因であると思う。</p>
加藤委員	<p>やはり、他市と比較して数字上で小金井市の不燃ごみが多いというのが非常に気がかりである。</p>
柿崎課長	<p>例えば、八王子市は汚れた容器包装プラスチックは燃やしている現状があるように各市の分別方法が異なるため、ある特定箇所の数値だけでは一概に言え</p>

<p>庄司会長</p>	<p>ない部分ではある。</p> <p>不燃系ごみが増加している原因については特定されておらず、分析の必要性については強く感じる。ただし、不燃系ごみについては増量している現状があり、どうしたら減量することができるかについては来年度以降の課題とする。</p> <p>今回については原案どおり、不燃系ごみの目標設定を1%減とし、処理計画上の各施策を推し進めていくということによろしいか。</p> <p>最後となるが他に何かあるか。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>先日開催された、ごみ減量ワークショップについて、次回までに途中経過で構わないので報告願いたい。</p>
<p>石阪課長補佐</p>	<p>進捗状況を確認した上で検討する。</p> <p>閉会</p>